

# Encourage & Company

皆さんこんにちは。  
エンカレッジアンドカンパニーの堀です。

私のコラムでは、中国の故事成語について、我々の日常に何か応用できないか、という観点でシリーズとして書き綴っています。

「士は己を知る者の為に死す（男子たるもの、自分の真価を認めてくれる人の為には、命を投げ出してでも応える）。」

この言葉は、史記に編纂されている刺客列伝（短編ストーリー）で豫讓（よじょう）が発する言葉です。

史記に貫かれている思想は「天道は是か非か」という問題提起です。つまり人々の模範となるような人徳者が非業の死を遂げる一方で、悪の限りをつくす外道が贅沢な生活を悠々とおくっているのが現実で、私たちが天道と信じる道は本当に幸福につながるのか？という問題提起です。

刺客列伝は本編とはつながりがないものの、その思想は貫かれ編纂されたと思います。豫讓は才能はあるもののどこの王にも認められませんでした。智伯という皆に嫌われ恐れられていたしょうもない王には真価を認められ国士として迎えられました。豫讓はそのしょうもない王に執着して命を投げ出して応えるのですが、それが美談として私の記憶には残りませんでした。もっといい王のもとで才能を発揮すべきだったと思いました。

我が家ではNetflixのオリジナルドラマ「火花」を観ています。漫才の道を突き進む主人公は、ちょっと年上の先輩の漫才をみて惚れ込み弟子にしてくださいと頭をさげ、先輩は若くして一人の弟子を得ました。しかしその先輩は漫才で食ってくのもやっとなで、素行が悪く、いろんな人とトラブルを起こし、しょうもない先輩なのです。

先輩は仕事もうまく行かず彼女にフラれ、渋谷の雑居ビルの下で一人自動販売機の酒を飲み泥酔し、小道で仰向けになり夜空を見上げ目から涙がこぼれます。何もうまく行かない、でも自分には唯一慕ってくれる弟子がいて、いつでも師匠師匠と頼ってくれる。自分のことを分かってくれる。その一点だけがすごく充実していることの涙でした。

そのしょうもない先輩の涙を見たときに、「士は己を知る者の為に死す。」という言葉が頭をよぎりました。

# Encourage & Company

こうゆう関係になれたら、どちらが「土」で、どちらが「知る者」かは関係なく相思相愛で、どちらも命を投げ出してでも期待に応えようとなり、どちらにもものすごいパワーが宿るのだと思います。刺客列伝には、智伯という皆に嫌われ恐れられていたしようもない王の描写はほとんどありませんが、豫譲を得たことでしょうかもない先輩のように涙したことでしょう。

私は現在 43 歳で中間に位置するので、「土」になったり「知る者」になったり要はどっちの立場にもなる場合があります。刺客列伝ほど大袈裟ではありませんが、どうしてこうゆう関係になれたのか自問自答することがあります。その本質は、自分の心を隠さなかったことだと思います。

刺客列伝、豫譲の話。ぜひ読んでもらいたいのので下にすべて書きました。

紀元前 450 年ぐらい。豫譲は多数の国に仕官するものの厚遇されなかったが、智伯は真価を認め国士として優遇した。智伯は宿敵の趙襄子を滅ぼすべく韓氏・魏氏と共に包囲するが、趙襄子は韓氏・魏氏を離反させ味方につけ智伯は裏切られ滅ぼされた。

趙襄子は智伯に対して積年の恨みを持っていたために、智伯の頭蓋骨に漆を塗り、酒盃として使っていた。辛うじて山奥に逃亡していた豫譲はこれを知ると「土は己を知る者の為に死す。」と復讐を誓った。

豫譲は左官に扮して、趙襄子の館に潜入し暗殺の機会をうかがったが、怪しまれ捕らえられた。趙襄子は「智伯は一族皆殺しのためもう親族はいないはずだ。一族ではないお前が、なぜあのようなみんなから恐れられ、恨みを買っている人物のために命をかけてまで復讐に来たのか？」と聞いた。

豫譲は答えた。「どこに仕官しても雑用扱いの私の真価を認めてくれ、屋敷まで与えてくれたのは智伯様だけだった...”土は己を知る者の為に死す””と言うが、私が智伯様の復讐を果たせるなら、処刑されても本望だ。」趙襄子はこれを聞いてそのような忠誠心をもった義士がこの世にいるのかと心を打たれ、豫譲を釈放した。

釈放された豫譲だが復讐をあきらめず、顔や体に漆を塗ってライ病患者を装い、炭を飲んで喉を潰し声を変えて、さらに改名して乞食となり、再び趙襄子を狙った。その変わり様に道ですれ違った妻子ですら豫譲とは気付かなかった。たまたま旧友の家に物乞いに訪れた所、旧友は彼を見て仕草ですぐに彼だと見破った。旧友は「君ほどの才能の持ち主であれば、趙襄子に召抱えられてもおかしくない。そうすれば目的も容易く達成できるのでに何故遠回りなことをするのだ？」と聞いた。

# Encourage & Company

豫讓は「初めから二心を持って仕えることになり士としてそれは出来ない。確かに私のやり方では目的を果たすのは難しいだろう。だが私は自分自身の生き様を持って後世、士の道に背く者への戒めにするのだ。」と答えた。

やがて、豫讓はある橋のたもとに待ち伏せて趙襄子の暗殺を狙ったものの、通りかかった趙襄子の馬が殺気に怯えた為に見破られ捕らえられてしまった。

趙襄子はあまりの執念深さに言葉を失った。さすがにこれ以上、豫讓を生かしておくわけにはいかない。趙襄子の配下が豫讓を斬る為に取り囲むと豫讓は趙襄子に向かって静かに語りかけた。

「賢明で優れた君主は人の美点・善行を隠さない、主人に忠実な家臣は節義を貫いて死を遂げる義務があると聞いています。以前、あなた様が私を寛大な気持ちでお許しになったことで、天下はあなた様を賞賛している。私も潔くあなた様からの処罰を受けましょう。...ですが、出来ることでしたら、あなた様の衣服を賜りたい。それを斬って智伯様の無念をはらしたいと思います。」

趙襄子はこれを承諾し豫讓に衣服を与えた。豫讓はそれを気合いの叫びと共に三回斬りつけ、「これでやっと智伯様に顔向けが出来る。」と満足気に言い終わると、剣に伏せて自らの体を貫いて自決した。趙襄子も豫讓の死に涙を流して「豫讓こそ、またとない真の壮士である。」とその死を惜しんだという。

この逸話は趙全体に広まり、豫讓は趙の人々に愛されたといわれる。

堀 洋三

# Encourage & Company

-バックナンバー中国故事成語をビジネスに応用する-

第1回「牛耳る」

第2回「鳴かず飛ばず」

第3回「司馬懿仲達」

第4回「我れ鳥獣にあらず」

第5回「国士無双」「狡兔死して走狗煮らる」

第6回「鼓腹撃壤」

第7回「外戚」

第8回「論語①」

第9回「東郭先生と狼」

第10回「孫子の兵法」

第11回「漢中（場所）」

第12回「不如意」

第13回「孟嘗君」

第14回「天道は是か非か」

第15回「道教①」

第16回「諸葛亮に足りなかったもの」